

1. 事業の位置付け

事務事業名	里山保全推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等	平塚市環境基本条例・神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例		
対象・受益者	市民、事業者、行政等	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 市民、市民活動団体、大学、学校】		
目的・目標		事業の概要	
里山を復元するとともに、復元された里山を自然とのふれあいや憩いの場、また生産の場として活用し、自然環境保全活動が活発に行われています。		自然環境評価結果に基づき、西部丘陵地域の自然を保全するため、市民や市内の大学との協働による里山の手入れや里山モデル地区での活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	里山保全活動開催回数				単位	回
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の開催回数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	7	7	9	9		
	実績	7	9	9	7		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	里山保全活動参加者数				単位	人
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の活動参加者数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	400	450	600	500		
	実績	363	578	471	521		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> その他	生活様式の変化等を背景に里山の管理が行き届かず、その恵み多き機能が失われてきています。市民活動団体や大学等との協働により、荒廃した里山の保全再生・活用を促進する必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	里山の再生、保全及び活用の活動を継続的に実施することは、里山についての市民の意識を高めるとともに活動への参加を促進し、里山の持つ多面的機能を次世代に引き継いでいくために有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	荒廃した里山を再生し、里山の持つ多面的機能を次世代に引き継いでいくためには、市民活動団体や大学等との協働により事業を継続、拡充することが重要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	県条例の補助制度の活用とともに、市民・大学・市が各々の役割と責任を認識し、地域住民や市民活動団体を主体とする活動への移行を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		協議会の開催及び里山 保全活動の実施	協議会の開催及び里山 保全活動の実施	協議会の開催及び里山 保全活動の実施	協議会の開催及び里山 保全活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	914	852
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	526	446	551	557
事業費 (A)		526	446	1,465	1,409
執行率 (%)		94.60	73.60	211.71	96.68
内訳	職員 (人)	0.70	0.69	0.69	0.97
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,874	5,790	5,766	8,012
フルコスト (A+B)		6,400	6,236	7,231	9,421

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	②:若干遅れている 東日本大震災等により、3月実施予定のモデル事業等が開催できなかった為
	主な取組と成果	用地交渉を重ね里山保全モデル事業用地を拡大した。組織体制の確立のため、地権者、環境保全団体、小学校、有識者、農業委員への参加を呼びかけ里山保全協議会を設立し、市民ボランティアと散策路の整備、下草刈り等を実施した。地元自治会、山林・農地地権者を対象に事業説明会を開催した。庁内里山推進会議では事業計画を研究した。市民大学交流事業や子ども環境教室を市民、大学、自然環境保全団体と協働で実施した。これらにより自然環境保全活動が活発に行われた。	里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施するなど、自然環境保全活動が活発に行われました。	里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施し、自然環境保全の啓発等に努めました。また、神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例に基づき、市民活動団体2団体の活動協定が認定され、県とともに活動を支援しました。	里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施し、自然環境保全の啓発等に努めました。また、神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例に基づき認定されている、市民活動団体2団体を県とともに支援しました。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	B:おおむね成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が必須である。地元住民の参加を得られていない状況に鑑み、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図る。	里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。地元住民の参加を得られていない状況を踏まえ、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。	里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。土屋地区里山モデル事業を継続して実施するとともに、地元住民への説明会を開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。	里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。土屋地区里山モデル事業を継続して実施するとともに、地元住民への説明会を開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	水辺の散策路整備促進事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間	～ 2011 年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 馬入水辺の楽校の会】		
目的・目標		事業の概要	
馬入橋から神川橋までの高水敷に水辺の散策路を整備し、川に親しめる環境づくりを、河川管理者と進めています。		河川に親しめる環境づくりのため、河川管理者である国に水辺の散策路の整備促進を働きかけます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	流域住民との検討会開催回数				単位	回
	説明・算定式	流域住民との検討会の実施回数(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	2	3	-		
	実績	1	2	1	-		
活動指標②	指標名	国への要望回数				単位	回
	説明・算定式	(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	1	1	-		
	実績	1	1	1	-		
成果指標①	指標名	利用可能な水辺の散策路延長割合				単位	%
	説明・算定式	馬入水辺の楽校エリア内の散策路(総延長820.1m)の整備率(H20年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	-	30	60	90		
	実績	-	0	90	90		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	近年、相模川の高水敷は利用者が増加し、堤防天端通路との回遊性を持たせたルートの整備は必要性が高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	車椅子利用者やお年寄りのためにも、バリアフリー化を図る必要があることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	河川敷高水敷の散歩や堤防天端通路の自転車走行など利用者のニーズも高まっていることから、より一層の環境改善を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	国による整備、市による維持管理が役割分担されていることから、更なる整備を国に働きかけます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		検討会の実施、国などへ要望書の提出	検討会の実施、国などへ要望書の提出	検討会の実施、国などへ要望書の提出、散策路等の維持管理	国への要望書の提出、散策路等の維持管理
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	4	333	1,010	943
事業費 (A)		4	333	1,010	943
執行率 (%)		0.00	2.08	50.50	99.74
内訳	職員 (人)	0.57	0.57	0.57	0.82
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		4,783	4,783	4,763	6,773
フルコスト (A+B)		4,787	5,116	5,773	7,716

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	③:遅れている	①:予定どおり
		-	-	検討課題がスムーズに解決しており、意見交換程度の会合開催で事業運営可能なため	-
主な取組と成果		馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会の実施1回。国に対し散策路の整備延伸を協議した。また、要望の結果、国が予算化した。	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。また、国に対し散策路の整備延伸を協議し、その要望の結果、国が予算化しました。	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。また、国が「かわまちづくり事業」を活用した馬入水辺の楽校内の散策路の整備を行ない、一部を除き舗装施工が行なわれました。	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。水辺の楽校内の散策路につきましては、一部未舗装部分を残したものの、施工者である国が概ね完成と判断したため成果指標は目標に達したものとします。
検証結果		A:成果があがった	C:十分に成果をあげることができなかった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		整備は国で行うが、維持管理は市で行うことが約束されており今後の管理費用の増加が見込まれる。	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されており、今後の管理費用の増加が見込まれます。	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されており、今後の散策路延伸協議や管理費用の増加が見込まれます。	国による整備、市による維持管理が役割分担されています。しかし、国は既設エリア以外の散策路整備を当面行わない方針のため、今後は維持管理中心の事業となります。そのことから市内河川占用区域での維持管理事業に組み込み、一体的な管理体制を目指す必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	海岸浸食対策促進事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、海浜利用者	事業期間	～ 2010 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
	美しく広々とした砂浜が確保されています。		美しい海浜を確保するため、ヘッドランドや人工リーフ・養浜など、海岸浸食対策事業の推進を県に働きかけます。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	県への要望回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	1	1	1		
	実績	1	1	1	1		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	ヘッドランド(横堤)整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	県のヘッドランド事業における全体事業費に対する割合					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	68	81	90	95		
	実績	75.1	81	90	100		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平塚海岸の侵食対策であり、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	泳げる海の保全是もとより、平塚海岸の浸食が抑制されることから有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input checked="" type="checkbox"/> その他	ヘッドランドの効果を検証して、平塚海岸の更なる浸食防止、保全を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	今後、県に対してヘッドランド付近の安全対策要望を行っていきます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.16	0.16	0.16	0.16
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,343	1,343	1,337	1,322
フルコスト (A+B)		1,343	1,343	1,337	1,322

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	県への要望活動を行った。消波ブロックを設置した。	県への要望活動を行い、消波ブロックを設置しました。	県への要望活動を行い浜崖部分への養浜が行われ、ヘッドランドの消波ブロックも計画通り設置されました。また、平塚土木事務所主催の縦堤設置に関する技術検討委員会が開催され、実施について検証しました。	神奈川県への要望活動を行い、高波により洗掘された浜崖部分への養浜が行われました。また、ヘッドランドは方針変更の結果、横堤のみの整備となり波消ブロックも計画通り設置され、整備完了しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。	県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。	平塚海岸の侵食対策は神奈川県の相模湾全体の侵食対策事業により検討が行なわれています。また、養浜対策用の砂の確保が課題となっています。ヘッドランド設置の効果は砂堆積の実績が現れており、縦堤の設置は22年度中に可否決定されます。	平塚海岸の侵食対策は平成23年度から神奈川県の「相模湾沿岸海岸侵食対策計画」により、維持的な養浜による侵食対策が進められていきます。個別課題としては、ヘッドランド付近の吸い込み防止等安全対策を神奈川県に要望する必要があります。